

棚田 ライステラス

第17号 2000.2.29

(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるきゃらネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078



福岡県浮羽町で
'99年秋に開催された「子どもポスター・コンクール」テーマ“棚田を守るために”入賞作品から
小学校低学年の部JAにじ組合長賞
御幸小3年 よねくらみき

小さいからこそ
あん・まく・どなるど
作家・宮城県立大学講師

日本に来て最初に棚田を目の前にしたとき、まるで自分が『不思議の国のアリス』の世界に転がり落ちたアリスのようでした。今まで見たことがない、ミニミニミニ……あまりに小さくて美しさが凝縮された世界がそこにありました。私は、360度真っ平らで地平線も見えるカナダの大草原で生まれ育ったものですから、棚田の小さくて手入れがすみずみにまで行き届いた密度の濃い美しさは驚きだったのです。

これは1982年のこと。大阪の河内長野に留学をしていたころのことです。それ以降、和歌山県、富山県などをフィールドワークするなかで、さらに棚田に出会い、その美しさに魅せられてきました。個人的には、石川県輪島市白米の棚田が好きです。密度の濃い棚田の世界に対し、その一方に広い海の世界がある、そのコントラストが気に入っています。

山と海。あたりまえなことですが、これらは水を通して環境的につながっています。棚田がどれだけの環境保全の役割をしているかといった科学的根拠は議論の最中ですから確かなことはいえませんが、山から海へといったナチュラル・エコ・システムの中で、システムのスタートである山、棚田の役割は大きいと思います。農家の方の話などからも、実際、荒れてしまい放ったらかしのところよりも、手入れが入っているところの方が、健全な水の循環が行われていることがわかります。

これから棚田学会の研究などが進み、棚田と自然のかかわりが明確になることを期待しています。

一方で農業による自然破壊もいわれていますが、棚田は、有機栽培、環境保全型農業を推進させるのに適したところだと思います。大規模農業ではない、小規模だからこそ環境に配慮した農法ができると考えています。今後、棚田はさらに大きな役割を果たせると期待しています。(談)

私たちの挑戦

2000年になりました。1999年度各地域において、行政が、また個人が、さまざまな挑戦を試みました。そんな奮闘ぶりをレポートしていただいている。

日本の棚田百選を歩いて

早稲田大学教授
中島 峰広

私は、「日本の棚田百選」の選定委員の一人である。選定は書類で行われたので、委員がすべてを見て選んだわけではない。

しかし、選んだからには現地を見て確認する責任があると思い、昨年の8月から足を踏み入れて暮れの30日に、追田型の棚田である栃木県の烏山町国見と茂木町石畑の棚田を訪ね、見た棚田百選の数は89か所になった。

そもそも「日本の棚田百選」は棚田の保全を図るために選ばれたものである。歩いてみると景観がすばらしいのは当然のこととして、各地でそれぞれの地域の条件に適合した方法で、棚田保全の取組みが始まっている。いくつかの事例を紹介してみたい。

取組みが最も早く始めたのは石川県輪島市白米の千枚田である。能登観光の目玉の一つでもあったことから、米の生産調整が始まった1970年より市が耕作助成金を出して保全に乗り出し

ており、現在では観光業関連の団体も加わって基金を設け、その運用益から助成金の捻出が図られている。

これに次るのが第1回全国棚田サミットが開かれた高知県檍原町神在居の千枚田である。棚田オーナー制発祥の地であり、すでに1992年にスタートしている。隔絶山村という不利な条件を克服するために、カントリーハウスとよばれる農家民宿を用意し、「来て泊まつて作業して下さい」という農作業参加型のオーナー制が展開されている。

これを機にして、棚田オーナー制は全国に広がり、現在では百選地のなかでも、水田としての利用にかぎれば、ほかに12か所の地区で工夫をこらしたオーナー制が実施されている。

NHK連続テレビドラマ「あすか」の舞台になっている奈良県明日香村稻瀬もその一つである。地元民とオーナーとの交流が盛んで、週末毎にオーナーが訪れる通い耕作ともいえるよう

な農作業参加型のオーナー制が

みられる。今年からは周辺の集落でも取組みが始まり、点から面へと保全活動が広げられている。

オーナー制による都市住民の支援をえて、見事な棚田景観の保全に力を入れているのが長野県更埴市姨捨と三重県紀和町丸山千枚田である。前者は文化庁によって名勝に指定され、後者

は町が保存条令を設けて保護に当たっており、農業体験が行われるオーナー田の2倍以上の棚田が復田されて景観のために維持が図られている。

そのほか、兵庫県加美町岩座神ではオーナー制の取組みと並行して、棚田を保全するために休耕田で畠わさびやそばを栽培し、その加工品を町の道の駅で販売する試みが始まっている。また、福岡県浮羽町葛籠では、町おこしグループが仕掛けた彼岸花巡りのイベントを切っ掛けにして、オーナー制が立ち上げられ、地元農家で生産された米・果物・野菜その他の農産物が会費を払ったオーナーに

届けられている。つまり付加価値を高めた農産品をオーナーに直接買い取つてもらうことにより、骨の折れる棚田経営を支援する体制がとられているのである。

オーナー制以外の取組みとし

ては、新潟県高柳町磯之辺において水路の補修や草刈を行つて府能勢町長谷をあげることがで、ここでは、府の公社が都市住民の市民農園として棚田を借り上げ、その所有者がつくる管理組合にオーナー会費より委託料を払つて日常の管理を委ねている。大都市圏内にある地理的な有利性を生かすとともに、積極的な広報活動により多くのオーナーを集め、委託料の資金となる会費の上積みが図られている。それによって農業經營を安定させて棚田の保全に結びつけようとしており、1999年には10アール当たり借地料を含めて25万円の委託料が支払われた。

これら水田として利用される棚田のオーナー制のほかに、転作物の大麦のオーナー制によつて、直接支払制度において選択的制を生み出しているのである。これらの努力は、4月から始まる直接支払制度において選択的必須要件とされる公益的機能を増進する活動として、間違いく評価されることになるであろう。

世界各国から田植えに

石川県輪島市企画課

上梶 秀治



20世紀最後の年、1999年は輪島市が、全国的に注目を浴びた年でした。21世紀、米は地球を救う「地球環境保全と米・稻作・農業」をテーマに輪島市と地球環境平和財團との共催で、第1回「1999地球環境米・米フォーラムin輪島」を当市白米町の棚田「千枚田」を舞台にして開催いたしました。

本フォーラムは、春の田植えを皮切りに秋の稲刈りまでの一年の農作業を通して、環境保全に果たす水田稲作の役割と、稲

下が自らお手植えになられた種もみをご下賜いただき、本フォーラムの象徴として「千枚田」に記念植栽を行いました。陛下の御心に深く感謝申し上げているところであります。

また、春の田植えフェスティバルには、本フォーラムの提唱者である高円宮憲仁親王殿下のご臨席を賜り、日本駐在の海外38ヶ国90人の外交官とその家族をはじめ、市内外のボランティアなど約1000名の参加を得て開催いたしました。

また、秋の稲刈りフェスティバルには、海外32ヶ国80余名の外交官とその家族をはじめ、市内外のボランティアなど約600名の参加を得て開催いたしました。

このフォーラムに参加された大使館関係者はすべて、春・秋同

作文化の根底にある「共に生きる」という精神性を改めて問いません。この機会を提供すべく開催したものであります。

このフォーラムには、天皇陛下が自らお手植えになられた種もみをご下賜いただき、「千枚田」に記念植栽を行いました。陛下の御心に深く感謝申し上げているところであります。

前段でも本フォーラムの開催

主旨について述べましたが、「米」は、他の作目と異なり、連作が可能な作目であり、高い生産性や栄養価は大量の人口を養う力を保持しており、21世紀に予想される食糧危機を救い、地球規模の環境保全に大きな役割を果たすものと考えます。

また、水田のもつ環境保全の役割は極めて大きく、とくに棚田は豊富な保水力と土壤浸食を防ぐ、まさに「緑のダム」といわれ、森林と並んで国土保全の重要な一翼を担つており、水田と稲作が地球規模の環境保全に大きく貢献するものと考えます。

終わりに、本フォーラムに参

加いた多大の外団大使館の皆さんはじめ、ご支援ご協力をいただきました多くの皆さんに心からの感謝を申し上げます。

「棚田地域等緊急保全対策事業」現地報告

新潟県安塚町まちづくり振興課

保野 良夫

平成10年からの3ヶ年事業で始まったこの事業は、棚田をかえる中山間地にとって、条件

によって条件は違うと思うが、新潟県では、国55%の補助率に対し、25%を付け足し、合計80%の高率補助となつた。

わが町でもさつそく地域での

説明会を開始し、事業募集をしたところ、さっばり乗つてこなかつた。原因は20%の地元負担によるようであり、協議調整を

図った結果、他事業に有利性のものもあることから、扱い手不足のなかで労力の軽減や容易に耕作ができる条件整備を推進することとした。

具体的には道路、田、水利を重点整備項目とすることとしたが、地元負担の軽減を図るために耕作道については、少しでも多くの舗装ができるよう原材料支給とし、負担はなしとした。

ただし、労力は地域が提供することを条件とした。この他の事業はすべて10%の負担にした。

この条件を示してから手を挙げる地域が増えってきた。しかし、これだけではもつたいない。今

後も引き続き本事業が導入されると、あまりに事業要望が多く、達成率は52%ほどである。

今までに17キロメートルに及ぶ耕作道の舗装を住民自身の手で実施してきたが、まだまだ未達成の部分がある。国の施策に延長をお願いしたいところであ

る。

この地域が増えてきた。しかし、これだけではもつたいない。今

後も引き続き本事業が導入されると、あまりに事業要望が多く、達成率は52%ほどである。

島根県三隅町

「棚田オーナー制度への試み」中間報告

中戸 清吾

オーナー・三隅町役場 農林水産課

く考えず、とはいっても真剣に
考え、おまかに仕組みが決定
した。

3日（日）稲刈り・はぜ干し、
10月24日（日）稲こぎ・糊摺り

平成8年度の米の生産調整推進対策集落説明会の場で、40歳代の男性が「なぜ、米しか作れない条件の悪い棚田地域に転作だ。なぜ、作らせないのか。」

悲鳴にも聞こえる声で訴えた。その時から室谷地区棚田との付き合いが始まった。

高齢化・担い手不足、米価格の低迷などから、年々荒れていいく田んぼが目立っている。なんとかしなくてはと荒れた田んぼを地図に落とし、集落長さんの門戸を叩いた。すぐに返事が返ってきた。「このままでは集落が崩壊する。生き残るために行動を起こさなくてはならない。」

以来、集落をあげてさまざまな取り組みがなされてきて、平成10年12月に農業・農村活性化の原動力となる、国の棚田地域等緊急保全対策事業の採択が決定した。次の課題として、このハード整備の効果を十分發揮させるために、振興（ソフト）対策の確立が急がれる。

集落農家の取り組みに対する意欲など下地は整っているので、後は具体的に取り組みを実行し、策の確立が急がれる。

とにかく一步、いや半歩でも着実に進んでいくこと、いくら試み

実な前進を行い、実績を残し、やればできる自信をつけなければならぬ。それでは何を、どういうことで、同事業の実施計画に盛り込んでいた、棚田のオーナー制度を試しにやることに決意した（しかし、はじめてのことで私も農家も様子がよくわからない。無鉄砲と思われる決断だが、考え込んで立ち止まらない。ここがこの集落農家の良いところ）。

県からいた先進地の報告書を参考に、制度の骨格づくりを開始する。オーナー（消費者）と農家（生産者）の利益が両立する仕組みはないものか。

私はすぐ打算的な考え方をする癖があり、経済性のことが先に浮かんだ。オーナーは米を小売店で買うより安く、農家は供出するより高い価格の設定にしよう。農作業は田植え、稻刈り及び脱穀について、オーナー家族が参加し（将来的には、たのもす）。農業改良普及センターの指導により棚田保存会の一組織である農会が初めてそばの試験栽培に挑戦したのが平成7年、当初栽培面積は20アールだったが3年後に、良質のそばの実が収めようと一気に倍の1・5ヘクタールに拡大して植え付け

といえども失敗して、悪いイメージが広がつてしまふ。そうすると遠慮がなく口のかたい身内（役場職員）がオーナーに決定した。作付けの規模は農家の負担を考え、とつつきやすい面積とするため、約2反くらいとする。戸数は面積から逆算する。

一家族年間消費量200キロ強として、多くても5家族とした。こういった感じであまり深くない。

今後この1年の貴重な体験を農家、オーナー双方で総括し、来年度に向けて活かしていくなければならない。オーナー制度をワンステップとして、室谷流生き残り策を農家と消費者でつくりたい。

新たな挑戦 ━━ 岩座神地区

兵庫県加美町産業課
山尾 清

島根県三隅町の試験オーナーたち。



昔見られた素朴な光景を再現し、人々の郷愁と共感を得られる地域づくりをめざす「いにしえの郷づくり」構想に取り組んで7年目、また一つ村の名物ができました。

県の農業改良普及センターの指導により棚田保存会の一組織である農会が初めてそばの試験栽培に挑戦したのが平成7年、当初栽培面積は20アールだったが3年後に、良質のそばの実がわずか20戸あまりの農家が石垣を積み上げた棚田でそばを栽培するには、機械が入りにくい、労力がかかる、そのうえ鹿やイノシシによる被害で収量が上が

ました。

真っ白なそばの花が山間の棚田を美しく彩った9月には「そばの花が白いじゅうたんを敷き詰めたよう満開」と大きく写真入りで新聞に掲載されました。

翌日、遠方から多くの方がカメラを持参でお越しになつたのに驚きました。

ここに至るまでに何の問題もなかったわけではありません。

そこで、農業改良普及センターによる「新春そば打ち大会」が開催され収穫した新そばの手打ち体験やそば粉100%のそばをみんなで味わいました。

美しい棚田から生まれた「い

棚田オーナーとなりて想う

佐賀県西有田町前町長
藤 寛

時の流れは早い。昨年4月末、任期満了で町長職を退いてから10カ月が過ぎた。世阿弥の言う「かんじんえんき」を生舌言葉にして、

るので、公の席に顔を出すことはまずない。幸い社家に生まれ、氏神に奉仕する仕事があるので、日々の暮らしを退屈だ

ところが、「閑心遠目」込んでおれない対象物がだけ残つた。棚田である。

私たちの町 西有田は典型的な中山間地域で、水田面積のおよそ25パーセントが棚田である。不思議なめぐり合せだ。平成8年9月、高知県梼原町に統いて第2回全国棚田サミットを開催、翌年度の全国棚田（千枚田）連絡協議会々長を仰せつかつた頃、棚田を見直す動きがにわかに活発化した。幾度となく関係方面に陳情を繰り返した思い出がいま鮮やかである。

恵まれたことに、農林水産省をはじめ棚田保全にかかる中央官庁に理性と情熱を併せ持つ素晴らしい政策立案者がいた。この人たちの身体を張つた取り組みで、中山間地域の農家に対

する直接所得補償など、それまでの農政の枠内では考えられなかつた画期的な施策が生まれた。無投票三選となつたとき、今

期かぎりを公紹していたので、
辞めることにはいささかの未練
もなかつた。そんな心境であつ
たにも拘わらず「棚田の保全は」平
成の大道楽だった「と後世の史

家に批判されぬよう努力しなければ……」と語った構造改善局の幹部の言葉が耳の奥にこびり

ついで離れない。」ならば今度は手足を使って棚田保全の先兵となるか——。文字どおり猫のひたい、100平方メートルの棚田を借り、娘とふたりでお百姓の真似事をしようと決めた、いささかの気負いを端的に表現すればそうなる。

西有田町印旛北

棚田とその周りの景色には四季を分かつぞれぞれの詩情がある。先日、この冬幾度目かの雪

棚田保全の先兵に

惠まれたことに、農林水産省

はじめ棚田保全にかかる中

大官庁に理性と情熱を併せ持つ

晴らしい政策立案者がいた。

この人たちの身体を張つた取り組みで、中山間地域の農家に対

しいばかりの美しさにしばし佇んだ。田植えどき、帯状の水面にカーブを描いて行儀よく並んでいる早苗もいい。しかし、私がいちばん好きなのは、収穫の秋、棚田を見守る山と森の容姿だ。

農は文化なり

農は文化なり

農作業のあい間、棚田の畦に

腰をおろし眼下に点在する箱庭

のような町並を見ていると生ま

れたこの地への言い知れぬ愛着が湧く。同時に30年先、50年先、

果たして岳地区の棚田はこのままの形状で存在し得るのだろうか。存在したとしても、そこで働くのは日本人だろうか。それとも労働力は海外依存といううとになるのだろうか。

決裂に終わった昨年のWTOシアトル会議では、日本やEU、韓国などが主張する農業の多面的機能(multi-functionality)と自由貿易の貫徹を目指す米国、オーストラリアなどとの意見対立が解けなかつた。これから再折衝で前向きの決着が期待できるのか。深刻な懸念が胸中をよぎる。

Cultureの語義が「土を耕すこと」であるように『農』は「文化」なり、と私は信じている。棚田が育んだ村落共同体の伝統も、結局はインターネットの世界に吸いこまれ、コマーシャリズムの渦にかかり消されてしまうのではないか——私の取り越し苦労に終わることを祈りたい。

岳信太郎棚田会の皆さんがあなたのためにしだれ桜の記念植樹をしてくれた。

私は桜の衣を奉れ
（ほつけ）

わがのちの世を
人とぶらわば

正月に東京に不思議な事

さりがみそば」、多くの学生ボランティアや棚田オーナーの協力により商品化された「いさりがみそば」は町内にある道の駅R427かみ・ハーモニパークで土産品として販売しており、順調に売上を伸ばしています。

最近、村の人の声として「岩座神始まって以来やろうなあ！」や「やっぱり人が来ると活気が出るなあ！」とよく聞くことがあります。以前にはなかつた活気とやる気がこの村の一番の収穫であり、更なる挑戦が期待できま

要チェック

全国棚田(千枚田)サミットニュース

第6回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会事務局



浮羽町役場の前に立てられた、地元、
全国棚田サミット」大立看板。
第6回

西暦2000年という世紀の節目に開催される第6回全国棚田(千枚田)サミットは、石積みの棚田が特徴的な九州の福岡県浮羽町と星野村で共同開催されます。浮羽町と星野村は、標高700mほどの耳納連山を挟んで隣り合っており、浮羽町は浮羽郡、星野村は八女郡と別々の郡にあります。そういった「垣根」を乗り越えて、棚田サミット史上初の2つの自治体による共同開催にむけて、昨年7月6日に実行委員会を発足して以来、浮

「第6回 全国棚田(千枚田)サミット」いよいよ準備本格化

羽町・星野村・福岡県の担当者からなる「プロジェクト会議」でサミットの詳細について、検討を重ねてきました。

そして、開催日を9月13日(水)、14日(木)の両日にわたり開催することなどを柱とする基本方針が1月26日に27の関係団体からなる地元実行委員会により決定されました。

メインテーマは「棚田新世紀(タナダルネサンス)」、サブテーマは「小さな棚田、大きな役割」で、地域の環境や景観の保全に大きな役割を担う棚田の重要性を21世紀にも伝えていく気持ちが込められています。サミット日程について、1日目の13日は星野村総合保健福祉センターをメイン会場として首長会議や総会などが、2日目の14日は浮羽町民ホールでシンポジウムが開催され、また日本棚田百選の浮羽町「つづら棚田」と星野村「広内・上原地区棚田」を中心とした棚田めぐりも予定されています。

棚田サミットには、毎年大勢の行政関係者が参加していますが、昨年の「棚田パノラマ展」で棚田保全の理解の輪が広がったように、福岡市から車で一時間という「地の利」を最大限に生かして、全国の都市住民の方にもどんどん参加をよびかけて、棚田保全への「理解と応援」を頂けるよう取り組んで参ります。

最後に、「棚田新世紀」というメインテーマにふさわしく今回の棚田サミットが、全国の棚田関係者はもちろん多くの皆様にとりまして、新世纪にむけた棚田保全を考える素晴らしい機会となるために、会員そして関係者の皆様方の温かいご支援賜りますよう心からお願い申し上げます。

(企画振興課
瀧内 宏治)

2000年 全国棚田サミット 福岡県浮羽町・星野村共同開催

日 時：2000年9月13日(水)～14日(木)2日間

テー マ：棚田新世紀(タナダルネサンス) サブタイトル：小さな棚田、大きな役割

大会会場／福岡県浮羽町&星野村

主会場／浮羽町民ホール、御幸小学校体育館、星野村総合保健福祉センター

宿泊先／浮羽町と星野村の宿泊施設

DATA

■9月13日(水)

- 9:00～9:50 全国棚田(千枚田)連絡協議会
理事会／星野村総合保健福祉センター
10:00～12:00 総会・首長会議／星野村総合保健福祉センター
12:00～12:50 昼食／星野村総合保健福祉センター
13:00～14:30 特別講演／星野村総合保健福祉センター
15:00～17:30 棚田の里めぐり／浮羽町・星野村
18:00～20:00 交流会／御幸小学校体育館

■9月14日(木)

- 9:00～9:30 開会式／浮羽町民ホール
9:30～10:30 基調講演／浮羽町民ホール
10:40～12:10 パネルディスカッション／浮羽町民ホール
12:10～13:00 昼食／浮羽町民ホール
13:00～13:40 事例発表／浮羽町民ホール
13:40～15:10 記念講演／浮羽町民ホール
15:10～15:20 共同宣言／浮羽町民ホール
15:20～15:30 閉会式／浮羽町民ホール

福岡県星野村

取材・文・石井里津子

そびえ垂直に幾重にも段を積み重ね天に向かう石積みの棚田

れ、広大な景観を生み出している。

胸がつまるような景色だった。

人はここまでしなければ生きていけなかったのか。生きてこれなかつたのか。

この棚田には、人々の「米を喰いたい。生きたい」という切実な思いが克明に刻み込まれていた。村中の棚田をめぐりながら、こみ上げてくる胸の痛みをわたしはこらえることができなかつた。人々がこの地で生きようとしてきた苦惱が胸を突く。

暮らしの歴史を、人々の魂をこんなにも刻み込んだ風景がいまだかつてあつただろうか。この地には、人々がどれだけ苦惱続け、稲作をするためにたゆまぬ努力をし続けてきたか、そしてその技術、文化がいかに優れているかを一瞬にして理解できてしまう強烈な説得力がある。

堅牢な城壁ともいえる棚田が開墾されたのがいつか、それはまだ定かではない。

だが、1997年、棚田開墾碑が発見された。開墾碑とはいっても、文字が掘られた石が建つてあるわけではない。あぜと組まれた大きな石の面に文字が彫られてあるだけだ。そのため、地主農家は「何か文字があるなあ」とは思いながらも、これまで取り立てて気にすることもなかつた。

そこにはこうした内容が記されていて、廣内村の庄吉と申す者が、此の開きを長々と相詰められ、急度（きびしく）出来（やまと）った棚田群27ヶ所を調査し、保全すべき棚田を第1種・第2種と定め、1997年には第1種に指定した廣内・上原地区に對し耕作助成金を交付しはじめ天保8年9月吉日（解説・佐々木四十臣）願主同邑

天保8年とは、1837年にあたる。1833年から1836年に起つた天保の飢饉の翌年である。飢饉に苦しんだこの地区の人々が、開田したのである。ここは、浮羽町との境にある標高700mほどの合瀬耳納峠のほぼ頂上に位置する。おそらく山裾から拓き続け、江戸末期には山の頂上に達したのである。山の下から上へと昇りゆくこの棚田群は、段数にして137段、425枚、広さは12.6haに及ぶ。

現在、村ではこの棚田群を第1種保全地域に指定し、保存に向けて努力を開始している。

1997年、棚田開墾碑が発見された。開墾碑とはいっても、文字が彫られてあるだけだ。そのため、地主農家は「何か文字があるなあ」とは思いながらも、これまで取り立てて気にすることもなかつた。

「何か手を打たねば」と1995年、村内のメンバーでつくる

「星野村景観保全検討委員会」を発足させた。委員会では、10分の1以上の棚田が50a以上まとめていた。村中の棚田をめぐりながら、こみ上げてくる胸の痛みをわたしはこらえることができなかつた。人々がこの地で生きようとしてきた苦惱が胸を突く。

暮らしの歴史を、人々の魂をこんなにも刻み込んだ風景がいまだかつてあつただろうか。この地には、人々がどれだけ苦惱続け、稲作をするためにたゆまぬ努力をし続けてきたか、そしてその技術、文化がいかに優れているかを一瞬にして理解できてしまう強烈な説得力がある。

堅牢な城壁ともいえる棚田が開墾されたのがいつか、それはまだ定かではない。

だが、1997年、棚田開墾

碑が発見された。開墾碑とはいっても、文字が彫られた石が建つてあるわけではない。あぜと組まれた大きな石の面に文字が彫られてあるだけだ。そのため、地主農家は「何か文字があるなあ」とは思いながらも、これまで取り立てて気にすることもなかつた。

会が発足してからは、みんなで集まって話したり、去年は三重県紀和町でのサミットに出かけ、「よそもがんばりよんじやるから、星野も後世に残していくんだ」つちゅう気持ちが出てきました。これが多くの人々に知られ、評価され応援してもらうことができ、評価され応援してもらうことで、この地に暮らしが続けていく誇りと豊かさが生まれるようになつた。

棚田は地域資源であり、日本の世界の財産であり、後世に伝えて行くべき、生きた遺産なのだ。この視点に立つことで、地域は開かれ、多くの応援を受け入れることができ、地域の暮らしを守っていくことができるのではないかだろうか。

ボランティアで、村長や議員などが率先して行う草刈りなど、村あげての協力体制はあるとう。しかし山科さんは「ボランティアでは長続きしないと思う」と語る。経済的な面で互いに保證がなければ、継続できない。

その他、いもほりオーナーやそばオーナー制度にも取り組み、

1990年からは、村の小学校の一つ、仁田原小学校では山村留学を始めている。

また、村の一角には、お洒落な「茶の文化館」が建ち、星の観測を楽しめる「星の文化館」が建つなど、活性化に向けた取り組みは行われ続けている。

だが、星野村には広大で巨大な農業遺跡を抱えてしまつた苦惱がある。が、これは星野村だけが抱え込む問題であつてはならない。星野村の農家は、見事な棚田を築きあげ、日々と耕し続け、棚田とともに暮らしがしてきた。これを多くの人に知らせ、評価され応援してもらうことで、この地に暮らしが続けていく誇りと豊かさが生まれるようになる。

ボランティアで、村長や議員などが率先して行う草刈りなど、

村あげての協力体制はあるとう。しかし山科さんは「ボラン

ティアでは長続きしないと思う」と語る。経済的な面で互いに保証がなければ、継続できない。

その他、いもほりオーナーやそばオーナー制度にも取り組み、

1990年からは、村の小学校の一つ、仁田原小学校では山村留学を始めている。

また、村の一角には、お洒落な「茶の文化館」が建ち、星の観測を楽しめる「星の文化館」が建つなど、活性化に向けた取り組みは行われ続けている。

だが、星野村には広大で巨大な農業遺跡を抱えてしまつた苦

惱がある。が、これは星野村だけが抱え込む問題であつてはな

らない。星野村の農家は、見事な棚田を築きあげ、日々と耕し

続け、棚田とともに暮らしが

してきた。これを多くの人に知

らせ、評価され応援してもらうことで、この地に暮らしが続けていく誇りと豊かさが生まれるようになる。

ボランティアで、村長や議員

などが率先して行う草刈りなど、

村あげての協力体制はあるとう。しかし山科さんは「ボラン

ティアでは長続きしないと思う」と語る。経済的な面で互いに保

証がなければ、継続できない。

その他、いもほりオーナーやそばオーナー制度にも取り組み、

1990年からは、村の小学校の一つ、仁田原小学校では山村

留学を始めている。

また、村の一角には、お洒落な「茶の文化館」が建ち、星の観測を楽しめる「星の文化館」が建つなど、活性化に向けた取り組みは行われ続けている。

だが、星野村には広大で巨大な農業遺跡を抱えてしまつた苦

惱がある。が、これは星野村だけが抱え込む問題であつてはな

らない。星野村の農家は、見事な棚田を築きあげ、日々と耕し

続け、棚田とともに暮らしが

してきた。これを多くの人に知

らせ、評価され応援してもらうことで、この地に暮らしが続けていく誇りと豊かさが生まれるよう

になる。

ボランティアで、村長や議員

などが率先して行う草刈りなど、

村あげての協力体制はあるとう。しかし山科さんは「ボラン

ティアでは長続きしないと思う」と語る。経済的な面で互いに保

証がなければ、継続できない。

その他、いもほりオーナーやそばオーナー制度にも取り組み、

1990年からは、村の小学校の一つ、仁田原小学校では山村

留学を始めている。

また、村の一角には、お洒落な「茶の文化館」が建ち、星の観測を楽しめる「星の文化館」が建つなど、活性化に向けた取り組みは行われ続けている。

だが、星野村には広大で巨大な農業遺跡を抱えてしまつた苦

惱がある。が、これは星野村だけが抱え込む問題であつてはな

谷津田の窒素浄化

やつだ

機能が確認 | 農業研究センターの調査から

農林水産省農業研究センターでは、1995年から茨城県霞ヶ浦周辺において、細い谷間に拓かれた田んぼ—谷津田の窒素浄化可能力を調べ、谷津田に窒素の流出を減らす機能があることを明らかにした。

最近、畑への過剰な肥料投入によって、雨が降ると硝酸態窒素が流れ出し、地下水汚染などの問題が起っている。この研究では、水田がもつ微生物の脱窒素作用などから水中の硝酸態窒素を浄化する機能に着目し、台地畑と谷津田が連なっている流域を対象に調査を行った。

その結果、畑から窒素濃度5~6 mg/Lの水をかんがい（平均26.6 mm/d）している水田において、水田を通り流出する窒素濃度は、稲の作付け期には、平均0.84 mg/Lにまで低下したことことがわかり、非作付け期（平均かんがい水量58.7 mm/d）においても平均4.36 mg/kg/ha程度の窒素を浄化できることがわかった。

さらに、畑地を主体とした地域を通過し系外へ流出するわき水と、畑地の約1/10の面積の水田・湿地（ハス放棄水田）を通過して流出するわき水とを比較すると、畑地主体の地域から流出する水の窒素濃度は、10~30 mg/L（環境基準値は10 mg/L以下とされている）と高いのに対し、畑地からの水が水田・湿地を通過する地域の表流水の窒素濃度は0.5 mg/Lと極めて低い結果が出た。

ここから計算される年間窒素流出量は1.7 kg/haと、雨水に含有される窒素濃度（約10 kg/haとされている）よりも低く、谷津田の窒素浄化機能が極めて高いことが明らかにされた。

こうしたことから今後、台地畑—谷津田の連鎖地域を積極的に残していくことが環境保全上大切であるとしている。

ゲンゴロウは
今も元気に泳いで
います。残念ながら卵は生みません
でした。むずかしい
ですね。私が小さい
ころは、よく田んぼ

な日本はこのまま推移したら海の中に消えて（流されて）しまうのではないかと心配しました。

小祝とし子（長野県個人賛助会員）

＊＊＊＊＊

「99年夏に行われた「棚田パノラマ体験展」にて「生きもの回廊」から本物のゲンゴロウを引き取ってクラスのみんなに紹介してくれた川辺拓哉君のお母さんから手紙をいただきました。」

10月に入り、秋風が吹くころ、学校へもって行きました。みんなに大きなゲンゴロウは本当にめずらしく、男の子にはカッコイイと女の子にはおもしろいと人気だったそうです。息子は1年生ですが、2年生や3年生の教室へも移動し、みんなで観察したようです。

クラスの子どもたちが書いた「ゲンゴロウのなかよしカード」のコピーを同封します。どうぞ、見てやってくださいませ。（一部抜粋）'99年11月吉日 川辺敦美（埼玉県）

鳥取県岩美町と若桜町で、2000年から「棚田ブチファームズ制度」がはじまる。参加費用は、岩美町横尾は1a=3万5千円（棚田米30kg・地元特産品ほか）。若桜町巻米は1a=3万円（棚田米20kg・地元特産品ほか）。それぞれ10区募集され、田植え、稲刈りには極力参加のこと。

問・岩美町農林水産課 TEL (0857) 73-1586 若桜町農林課 TEL (0858) 82-2238

2000年、新しい時代がスタートしました。今までが「消費の時代」「発展開発の時代」だとしたら、これから時代はどうなるでしょうか。こうした価値を生み出したのは都市。それに対し今後、新しい価値を生み出し、発信する場となり得るのは、「棚田」や「農村地域」であってほしいと願っています。個人的には、食も農も、平和もぜんぶひっくりめた“安全安心な時代”にしないとヤバイなあといいう気がしています。

さて、次号の特集は「県の取り組み」の予定です。「うちの県はこへだよ」など、情報、みなさんの声、お待ちしています。

石井里津子

推進会議 農業研究センターより

お便りテラス

足当初から
（何かで棚田のことを知り）個人で
加入しました。日本開発されてい
て、馬の背のよう

棚田オーナーを募集します

全国棚田（千枚田）連絡協議会
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局
新潟県安塚町役場まちづくり振興課

新潟県東頸城郡安塚町安塚722-3
TEL 02559-2-2003 FAX 02559-2-3505

新しく会員になったみなさま

今回、新しく会員になられた方々はいらっしゃいませんでした。平成11年度、和歌山県龍神村が自治体会員に入会されていたにもかかわらず、ご紹介がもれていましたことお詫び申し上げます。（事務局）

編集後記

2000年、新しい時代がスタートしました。今までが「消費の時代」「発展開発の時代」だとしたら、これから時代はどうなるでしょうか。こうした価値を生み出したのは都市。それに対し今後、新しい価値を生み出し、発信する場となり得るのは、「棚田」や「農村地域」であってほしいと願っています。個人的には、食も農も、平和もぜんぶひっくりめた“安全安心な時代”にしないとヤバイなあといいう気がしています。

さて、次号の特集は「県の取り組み」の予定です。「うちの県はこへだよ」など、情報、みなさんの声、お待ちしています。

石井里津子

会員募集中

「台地畑—谷津田連鎖系における水

田・湿地の窒素浄化機能」農業研究

センター土壤肥料部 水質保全研究

室 阿部 薫 「平成10年度 総合農

業の新技術第12号」（総合農業試験研究

推進会議 農業研究センター）より